



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 ダイコク電機株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 6430 URL <https://www.daikoku.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大上 誠一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理統括部長 (氏名) 岡本 篤憲 (TEL) 052-581-7111  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	23,286	22.2	3,949	160.7	4,144	161.7	2,832	122.6
2022年3月期第3四半期	19,058	5.9	1,515	153.3	1,583	90.4	1,272	145.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 2,833百万円(122.9%) 2022年3月期第3四半期 1,271百万円(138.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	191.62	—
2022年3月期第3四半期	86.08	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	45,482	33,310	73.2
2022年3月期	41,489	31,141	75.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 33,310百万円 2022年3月期 31,141百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	25.00	—	35.00	60.00
2023年3月期	—	10.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	60.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	23.0	3,000	151.8	3,200	134.0	2,100	70.9	142.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 新規 1社 (社名) 株式会社グローバルワイズ : 有
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期3Q	14,783,900株	2022年3月期	14,783,900株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	945株	2022年3月期	918株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期3Q	14,782,980株	2022年3月期3Q	14,782,982株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関しては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	10
(企業結合等関係)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年12月31日）におけるわが国経済は、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気を持ち直しが見られました。しかしながら、国際情勢に起因する資源価格の高騰や供給面での制約による物価上昇など、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、依然としてパチンコホールの営業店舗数が年々減少する厳しい市場環境にありますが、徹底した感染症対策を講じながら営業を継続しており、全遊技機の稼動状況は、2022年10月～12月の期間平均で前年同期比105.4%となりました。種別稼動状況につきましては、パチンコ機は昨年度に登場した遊技機が引き続きファンから高い支持を得ており、10月～12月の期間平均は前年同期比102.8%と堅調に推移しました。パチスロ機は6月よりパチスロ6.5号機、11月よりスマートパチスロの導入が順調に始まり、ファンから高い支持を得た遊技機の登場もあって、10月～12月の期間平均は前年同期比110.1%と大幅に上昇しました（当社「DK-S I S」データ比較）。

スマート遊技機に対する市場の期待感が高く、第3四半期末時点でパチスロ機全体におけるスマートパチスロの設置割合は6.0%（当社「DK-S I S」データより）となっておりますが、今後設置割合は増加することが想定されるため、スマート遊技機に対応するための設備投資は活発化する見込みです。

このような市場環境のもと、情報システム事業におきましては、スマートパチスロの登場により、スマート遊技機に必要なカードユニットや関連製品への需要が集中したため、増産体制の構築、関連部材の調達等につとめました。また第2四半期に引き続き、スマート遊技機のデータ管理に最適なA I ホールコンピュータ「X（カイ）」へのシステムアップによる入替促進や、スマート遊技機登場によって変化する市場環境への対応に関連した「Market-S I S」等のMIRA I G A T Eサービスの拡販を行いました。

制御システム事業におきましては、既存のパチンコ機に加え、事業領域拡大のため、引き続きパチスロ機の開発体制の強化及び製造環境の再整備に取り組み、パチスロ機1機種種の製造を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高232億86百万円（前年同期比22.2%増）、営業利益39億49百万円（同160.7%増）、経常利益41億44百万円（同161.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益28億32百万円（同122.6%増）となりました。

セグメント業績は次のとおりであります。

#### (情報システム事業)

当事業の第3四半期連結累計期間は、世界的な半導体不足による影響が継続しているなか、スマートパチスロ導入に向けた活発な設備投資需要に対し、最大限に応えられるよう準備を進めてまいりました。

このような市場環境のもと、「パチンコホール向け製品等」の売上は、スマートパチスロ導入に伴い、スマート遊技機専用ユニットを含む当社カードユニット「VEGAS I A」やパチスロ需要が高いファン向け情報公開端末「BiGMO PREMIUM」の販売台数が順調に推移した結果、前年同期を大幅に上回りました。「サービス」の売上は、主要なサービスが堅調に推移したほか、「Clari s Link」、「Market-S I S」等の新規サービスや市場変化への対応に関連するMIRA I G A T Eサービスの加盟店舗数が増加したこともあり、前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は192億20百万円（前年同期比30.5%増）、セグメント利益は46億67百万円（同117.0%増）となりました。

#### (制御システム事業)

当事業の第3四半期連結累計期間は、前期に実施された新規機への入替が完了したことによる反動とスマート遊技機の動向を探る動きが期初より続いており、市場全体における遊技機販売台数は減少しましたが、11月にスマートパチスロの市場投入が順調に開始されたことにより、パチスロ機の遊技機販売台数が増加するなど、今後の市場の活性化が期待されます。このような市場環境のもと、表示ユニット及び制御ユニット販売は前年同期を下回りましたが、部品販売は好調に推移し前年同期を上回りました。また、取引先遊技機メーカーの民事再生手続きによる債権に対する貸倒損失を計上しました。

この結果、当事業の売上高は40億71百万円（前年同期比6.2%減）、セグメント利益は4億4百万円（同16.6%減）となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率(%)
売上高	19,058	23,286	4,227	22.2
情報システム事業	14,727	19,220	4,493	30.5
制御システム事業	4,341	4,071	△269	△6.2
営業利益	1,515	3,949	2,434	160.7
経常利益	1,583	4,144	2,560	161.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,272	2,832	1,560	122.6

(注) セグメントの業績の金額には、セグメント間取引が含まれております。

#### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、営業債務の決済などに伴う現金及び預金の減少はありましたが、スマート遊技機に必要なユニットや関連製品への需要増に対応するべく調達につとめた結果として、製品が増加しております。また、当第3四半期連結会計期間の売上が好調に推移したため、営業債権が増加したことにより、前連結会計年度末に比べて39億92百万円増加の454億82百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、製品仕入の増加に伴い営業債務が増加しております。また、所得の増加に伴う未払法人税等も増加したことにより、前連結会計年度末に比べ18億23百万円増加の121億71百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、配当金の支払がありました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、前連結会計年度末に比べ21億68百万円増加の333億10百万円となりました。自己資本比率は73.2%（前連結会計年度末比1.9ポイント下降）となりました。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、2023年2月9日公表の「2023年3月期通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正（50周年記念配当）に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、今後業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

また、業績等に影響を与える事業等のリスクについては、最近の有価証券報告書(2022年6月30日提出)により開示を行った内容から重要な変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,581,552	13,413,290
受取手形、売掛金及び契約資産	3,395,453	8,306,950
電子記録債権	1,672,665	1,510,232
商品及び製品	3,670,843	6,149,288
仕掛品	93,408	116,460
原材料及び貯蔵品	669,916	597,038
その他	683,570	745,604
貸倒引当金	△3,210	△95,200
流動資産合計	26,764,200	30,743,664
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,378,195	3,222,999
土地	4,162,117	4,162,117
その他（純額）	818,769	612,662
有形固定資産合計	8,359,082	7,997,779
無形固定資産		
ソフトウェア	2,318,108	1,983,891
のれん	—	833,032
その他	33,547	33,169
無形固定資産合計	2,351,655	2,850,093
投資その他の資産		
繰延税金資産	679,116	466,775
投資不動産（純額）	881,248	868,379
その他	2,608,634	2,770,656
貸倒引当金	△154,032	△215,062
投資その他の資産合計	4,014,967	3,890,748
固定資産合計	14,725,705	14,738,621
資産合計	41,489,905	45,482,285

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,594,482	3,111,625
電子記録債務	2,588,490	2,957,399
短期借入金	2,000,000	2,000,000
未払法人税等	32,678	1,124,613
役員賞与引当金	64,240	37,020
製品保証引当金	61,368	42,890
その他	2,078,128	1,978,554
流動負債合計	9,419,388	11,252,102
固定負債		
役員退職慰労引当金	433,496	447,463
退職給付に係る負債	228,631	224,704
その他	266,675	247,707
固定負債合計	928,803	919,875
負債合計	10,348,192	12,171,978
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	674,000	674,000
資本剰余金	680,008	680,008
利益剰余金	29,662,225	31,829,733
自己株式	△1,692	△1,746
株主資本合計	31,014,540	33,181,996
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,680	14,435
退職給付に係る調整累計額	114,491	113,875
その他の包括利益累計額合計	127,171	128,310
純資産合計	31,141,712	33,310,307
負債純資産合計	41,489,905	45,482,285

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	19,058,358	23,286,102
売上原価	11,132,608	12,489,242
売上総利益	7,925,750	10,796,859
販売費及び一般管理費	6,410,563	6,847,511
営業利益	1,515,187	3,949,348
営業外収益		
受取利息	14,972	11,643
受取配当金	7,581	7,543
不動産賃貸料	67,617	65,617
雇用調整助成金	—	125,024
その他	22,015	28,296
営業外収益合計	112,186	238,125
営業外費用		
支払利息	5,282	4,969
不動産賃貸費用	35,937	36,533
その他	2,759	1,740
営業外費用合計	43,978	43,242
経常利益	1,583,394	4,144,231
特別利益		
固定資産売却益	—	1,771
投資有価証券売却益	—	3,375
特別利益合計	—	5,146
特別損失		
固定資産除却損	1,492	7,490
減損損失	67,047	6,328
賃貸借契約解約損	—	7,851
その他	2,690	—
特別損失合計	71,231	21,670
税金等調整前四半期純利益	1,512,163	4,127,706
法人税、住民税及び事業税	24,970	1,083,613
法人税等調整額	214,635	211,350
法人税等合計	239,606	1,294,964
四半期純利益	1,272,557	2,832,742
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,272,557	2,832,742



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,272,557	2,832,742
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,871	1,754
退職給付に係る調整額	4,907	△615
その他の包括利益合計	△964	1,139
四半期包括利益	1,271,592	2,833,881
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,271,592	2,833,881

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社及び国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

#### 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

#### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	情報システム事業	制御システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,727,307	4,331,051	19,058,358	—	19,058,358
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	10,077	10,077	△10,077	—
計	14,727,307	4,341,128	19,068,436	△10,077	19,058,358
セグメント利益	2,151,256	484,705	2,635,962	△1,120,775	1,515,187

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,120,775千円には、セグメント間取引消去7,136千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,127,911千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「情報システム事業」セグメントにおいて、今後利用計画のない遊休資産について、今後のキャッシュ・フローの回収可能性を鑑みて、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、63,007千円であります。

「制御システム事業」セグメントにおいて、連結子会社の有する事業用資産について、今後のキャッシュ・フローの回収可能性を鑑みて、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、4,040千円であります。

#### 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、従来の「営業外収益」で計上していた「受取分配金」は、「売上高」に含めて計上するように組替えております。当該変更により、組替え前に比べて「制御システム事業」の売上高及びセグメント利益が83,485千円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	情報システム事業	制御システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,220,394	4,065,707	23,286,102	—	23,286,102
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	5,948	5,948	△5,948	—
計	19,220,394	4,071,656	23,292,051	△5,948	23,286,102
セグメント利益	4,667,217	404,355	5,071,573	△1,122,224	3,949,348

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,122,224千円には、セグメント間取引消去5,501千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,127,726千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「制御システム事業」セグメントにおいて、連結子会社の有する事業用資産について、今後のキャッシュ・フローの回収可能性を鑑みて、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、6,328千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社グローバルワイズの株式を取得し、連結範囲に含めたことにより、「情報システム事業」セグメントにおいて、のれんが833,032千円増加しております。

なお、のれんの金額は、企業結合日以後、決算日までの期間が短く、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定及び時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	情報システム事業	制御システム事業	
パチンコホール向け製品等	9,926,580	—	9,926,580
サービス	4,800,726	—	4,800,726
遊技機メーカー向け表示・制御ユニット等	—	2,401,198	2,401,198
部品・その他	—	1,929,852	1,929,852
顧客との契約から生じる収益	14,727,307	4,331,051	19,058,358
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	14,727,307	4,331,051	19,058,358

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	情報システム事業	制御システム事業	
パチンコホール向け製品等	14,414,809	—	14,414,809
サービス	4,805,585	—	4,805,585
遊技機メーカー向け表示・制御ユニット等	—	1,820,997	1,820,997
部品・その他	—	2,244,710	2,244,710
顧客との契約から生じる収益	19,220,394	4,065,707	23,286,102
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	19,220,394	4,065,707	23,286,102

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社グローバルワイズ  
事業の内容 クラウドサービス等のシステム開発

② 企業結合を行った主な理由

当社は、2021年11月24日に開示した「中期経営計画の策定に関するお知らせ」に記載のとおり、パチンコホール経営支援サービスの業界唯一のプラットフォームを構築するためにクラウドの活用を推進しており、クラウドの活用により既存サービスを拡充し、安定収益の増加と事業規模の拡大を実現します。

株式会社グローバルワイズはクラウド構築からシステム開発、システム運用保守までをワンストップで実現する会社であり、当社の既存サービスのクラウド化に向けて高いシナジー効果が期待されます。また、株式会社グローバルワイズのノウハウを活用することで当社グループが中長期にわたる持続的な成長とさらなる企業価値向上が実現できると判断し、株式を取得しました。

③ 企業結合日

2022年12月20日（株式取得日）  
2022年12月31日（みなし取得日）

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更ありません。

⑥ 取得した議決権比率

98.3%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の現金を対価とする株式取得を実施したため、当社を取得企業としております。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

みなし取得日を2022年12月31日として連結しているため、被取得企業の業績は当第3四半期連結累計期間の業績に含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	191百万円
取得原価		191百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用 32百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額

833百万円

なお、上記の金額は、企業結合日以後、決算日までの期間が短く、企業結合日時点の識別可能資産及び負債の特定及び時価の見積りが未了であるため、取得原価の配分が完了しておらず、暫定的に算定された金額であります。

② 発生原因

株式会社グローバルワイズの当社グループ加入後に期待される超過収益力が主な原因であります。

③ 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却